

令和 8 年 1 月 9 日
奄美海上保安部

【問い合わせ先】

奄美海上保安部

交通課長 古川 忠文

電話：0997-53-5569



令和 7 年 奄美群島周辺海域における 海の事故発生状況について（速報）

1 船舶事故

●船舶事故 9 隻（死者・行方不明者 0 人） 前年比－8 隻

船舶種類別では、プレジャーボートが 4 隻と最も多く、次いで貨物船 3 隻、漁船 1 隻、旅客船 1 隻の順となっています。

事故種類別では、機関故障や推進器障害等による運航不能が 6 隻と最も多く、次いで乗揚 2 隻、転覆 1 隻の順となっています。

なお、船舶事故に伴う乗船者の死者・行方不明者は、前年と同様ゼロでした。

（1）船舶種類別の推移〔単位：隻〕

【速報値】

船舶種類	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
プレジャーボート	6	5	4	6	4
漁船	5	2	3	4	1
貨物船	0	0	0	3	3
作業船	0	1	0	1	0
旅客船	0	2	2	1	1
遊漁船	0	0	0	1	0
タンカー	0	0	1	0	0
その他	0	0	0	1	0
合計	11	10	10	17	9

(2) 船舶事故種類別の推移〔単位：隻〕

【速報値】

事故種類	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
運航不能	5	6	5	8	6
乗揚	3	4	4	3	2
転覆	1	0	0	4	1
衝突	0	0	1	1	0
浸水	1	0	0	1	0
その他	1	0	0	0	0
合計	11	10	10	17	9

※ 運航不能とは、機関故障、舵故障、無人漂流等をいう。

2 人身事故

● 人身事故 21 人（死者・行方不明者 8 人） 前年比 +1 人

マリンレジャーに伴う海浜事故が 11 人と最も多くなっています。活動内容別では、遊泳中 7 人、ダイビング中 2 人、釣り中 1 人、磯遊び中 1 人でした。

そのうち、奄美群島外在住者による事故は 7 人で昨年より 4 人増加しており全体の約 6 割を占めています。

事故数及び事故に伴う死者・行方不明者数の推移〔単位：人〕

【速報値】

事故区分	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
マリンレジャーに伴う海浜事故	14 (7)	13 (10)	13 (9)	9 (3)	11 (7)
マリンレジャー以外の海浜事故	8 (2)	14 (4)	9 (0)	7 (0)	7 (1)
船舶事故以外の乗船中の事故	4 (2)	2 (1)	2 (1)	4 (3)	3 (2)
合 計	26 (11)	29 (15)	24 (10)	20 (6)	21 (10)
死者・行方不明者	12 (3)	15 (6)	11 (4)	9 (3)	8 (2)

() 内…奄美群島外 在住者人数

※ マリンレジャーに伴う海浜事故

…余暇活動に伴って発生した海洋において事故（海水浴、釣り、サーフィン等）

マリンレジャー以外の海浜事故

…余暇活動に伴うもの以外で発生した海洋において事故（車両等の海中転落等）

船舶事故以外の乗船中の事故

…船舶事故以外の事由により発生した船舶の乗船者の事故（海中転落、負傷、病気等）

マリンレジャーに伴う海浜事故の内訳〔単位：人〕

【速報値】

活動区分	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
遊泳中	9 (5)	7 (6)	7 (7)	4 (2)	7 (5)
釣り中	1 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)
スクーパーダイビング中	1 (1)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	2 (2)
サーフィン中	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
磯遊び中	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
S U P 中	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ボートセーリング中	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	14 (7)	13 (10)	13 (9)	9 (3)	11 (7)
死者・行方不明者	5 (2)	7 (5)	6 (4)	3 (2)	3 (1)

() 内…奄美群島外 在住者人数

3 事故事例

(1) 船舶事故

① 乗揚

令和7年2月26日、砂利運搬船が住用町山間港(戸玉地区)へ入港の際に浅瀬に乗揚げました。砂利運搬船は、その後満潮にあわせて起重機船により引き出され自力で航行開始しました。乗組員に怪我等はなく、油の流出はありませんでした。

② 転覆

令和7年12月9日、事故者(男性70代)は釣り目的で手漕ぎボートに1名乗船し和泊町和泊港を出港しました。途中波が高かったため引き返そうとした際に転覆し船外へ投げ出され自力で近くのテトラポットに上がり救助を求め、鹿児島県水難救済会和泊救難所の所属船により救助されました。

(2) 人身事故

① 遊泳中

令和7年8月1日、笠利町あやまる岬ビーチで、男性1名と女性2名がスノーケリング中、岸に戻ろうとしたところ離岸流で流され、ライフジャケットを着用していた男性に掴まり、沖合まで流されました。その後、足の届く岩礁に辿り着き防止バックに入れた携帯電話から救助を要請し地元消防団の水上バイクで救助されました。

② 釣り中

令和7年7月19日、事故者(男性40代)は、大和村思勝港に夜釣りに行くとお出かけましたが、帰ってこないと家族から通報がありました。思勝港には行方不明者の車が駐車されており、警察、消防、当庁等関係機関が捜索しましたが発見に至らず、現在も行方不明のままとなっています。

4 奄美海上保安部の取り組み等

(1) 船舶事故

昨年は、例年と同様にプレジャーボートの事故が4隻と多く発生し、貨物船の事故も3隻発生しました。また、昨年は、台風等による荒天に伴う事故の発生が少なかったことも要因の一つですが前年と比較し8隻の減少となっています。

事故内容の特徴として、機関故障や推進器障害等による運航不能が6隻、旅客船と貨物船による乗揚げが2隻発生しています。

これらの事故は、発航前点検や定期的な点検、自船の位置確認や見張りを行うことで防げる場合もありますので、引き続き、事業者やマリンレジャー愛好者に対して、基本的遵守事項として「発航前点検の徹底」「見張りの徹底」等と呼びかけ、船舶事故防止活動を継続していきます。

(2) 人身事故

昨年は、マリンレジャーに伴う海浜事故防止（特に観光客に対して）に取り組みましたが、遊泳中の事故が7人発生したこともあり、前年と比較すると2人の増加となりました。

海の事故は一步間違えると死亡事故に発展する可能性が高いことを鑑み、引き続き、奄美群島内の関係機関（自治体、警察、消防、宿泊施設、マリンショップ、レンタカー会社、航空会社等）と連携し、「ライフジャケットの着用」「気象・海象の確認」「体調管理」「子供から目を離さない」等と呼びかけマリンレジャーでの事故防止活動を継続していきます。